

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第1号(2022年4月号[2022/4/1発行])

リウマチセンターニュース創刊

皆様こんにちは。宮崎善仁会病院リウマチセンター所長の日高利彦です。4月に入って、暖かい日も増えてきましたが、当院に通院中の皆様は、いかがお過ごしでしょうか？この度、当センターで情報提供を目的としてリウマチセンターニュースを創刊することとなりました。病気を一緒に治療していくためには、やはり病気の事を知ることが肝心です。リウマチ・膠原病関連のお話しを中心に毎号載せていきたいと思えます。内容につきましても、できるだけ分かりやすい形で掲載したいと思えますが、分かりにくいところや知りたいことなど御意見がありましたら、どしどしと御意見を頂ければと思えます。今回からシリーズで、現在の関節リウマチの治療の考え方などをまとめますので、読んで頂ければと思えます。

関節リウマチとは

関節リウマチ (RA) は全身性の関節に慢性炎症を来す全身性自己免疫疾患 (膠原病) で、患者数も70~100万人と比較的多いことから身近な難病とも言われます。女性に多く (男女比は1:4~4.5)、30~50歳代に好発すると言われていましたが、最近では高齢でも発症する方が増えてきています。関節破壊は早期に起こり、生涯進行します。進行性の関節破壊により生活の質 (QOL) の低下を起こしますが、初期にしっかりと治療を行う事で前の状態に

戻すことができます。関節破壊を起こすと戻らなくなり、放置しておけば寝たきりになります。更に関節のみならず内臓病変も生じることから生命予後が低下します (平均寿命が10年短い)。それは、膠原病としての関節外症状と炎症やステロイド薬による動脈硬化性病変によって発症する心血管イベントなどに起因します。活動性の高い関節リウマチは、放っておくと生命にも影響を及ぼすことから、ある意味、救急疾患であるとも言えます。

関節リウマチ治療の考え方と治療の実践

RAは免疫の異常によって引き起こされる病気です。特定の遺伝子 (RAになりやすい体質) を持っている方に、喫煙、歯周病、感染症、妊娠出産などの環境因子が加わり、自分の免疫が自分の体を攻撃する状態になり (自己免疫現象) 関節リウマチが発症します (図1)。この環境因子は、環境要因とも言われ、我々を取り巻くものや出来事の事で、発病のきっかけになったり、発病しているRA自体を悪化させるきっかけにもなったりします。様々な免疫異常により、体内の炎症や免疫異常に関わる蛋白質 (炎症性サイトカイン) が異常に増加し、更にリウマトイド因子 (RF) は抗CCP抗体 (ACPA) の様な自己抗体の影響もあり、関節の炎症 (滑膜に炎症) が生じ、それが慢性化します。持続性の炎症により、骨・軟骨が破壊され、関節の変形を来たし日常生活 (裏面へ続く)

活がままならなくなる病気です。最近の研究では、関節破壊は発病後早期（最初の2年間に進行することがわかっています。この時機を「Window of Opportunity（治療機会の窓）」と呼び、来るべき関節破壊の進行を少なくする／止めることができる”ということが、臨床試験により示唆されており、抗リウマチ薬（DMARD）の有効性（感受性）が最も高い時です。来るべき関節破壊、ADLの低下、生命予後の悪化を予防する目的で、早期からの進行を抑制する適切な治療を実践していくことが重要です。

RAの治療薬や治療の考え方はここ10～20年で目覚ましく進歩し、その進歩により寛解を目指せる時代となってきました。つまり、以前は症状をとるだけの治療であったものが、治療の進歩により、後述のメトトレキサート（MTX）を中心とする従来型合成抗リウマチ薬（csDMARDs）と生物学的抗リウマチ薬（bDMARD）、分子標的型合成抗リウマチ薬（tsDMARD:ヤヌスキナーゼ（JAK）

阻害薬）をうまく使用し適切な治療戦略を実践する事により、寛解や治癒を目指すことが出来る時代へと移ってきています。寛解とはRAの症状や所見が認められなくなった状態のことで、臨床症状や病気の活動性が完全に落ち着いている状態を意味する『臨床的寛解』が一般的です。更に、関節破壊の進行もなくなったことを意味する『構造的寛解』、そして、機能障害の進行がなく日常生活に支障のなくなった『機能的寛解』、これらの三つの寛解（臨床的寛解、構造的寛解、機能的寛解）を満たす『完全寛解』、更に薬物治療の必要が全く無くなる程に疾患が抑制された『薬剤フリー寛解』と、しっかりした治療を行う事で、より高度の寛解状態を目指すことが出来るようになってきています。

次号では、寛解を目指すのに必要な事と現在の関節リウマチの治療の大まかな流れについてお話ししたいと思います。

（日高利彦）

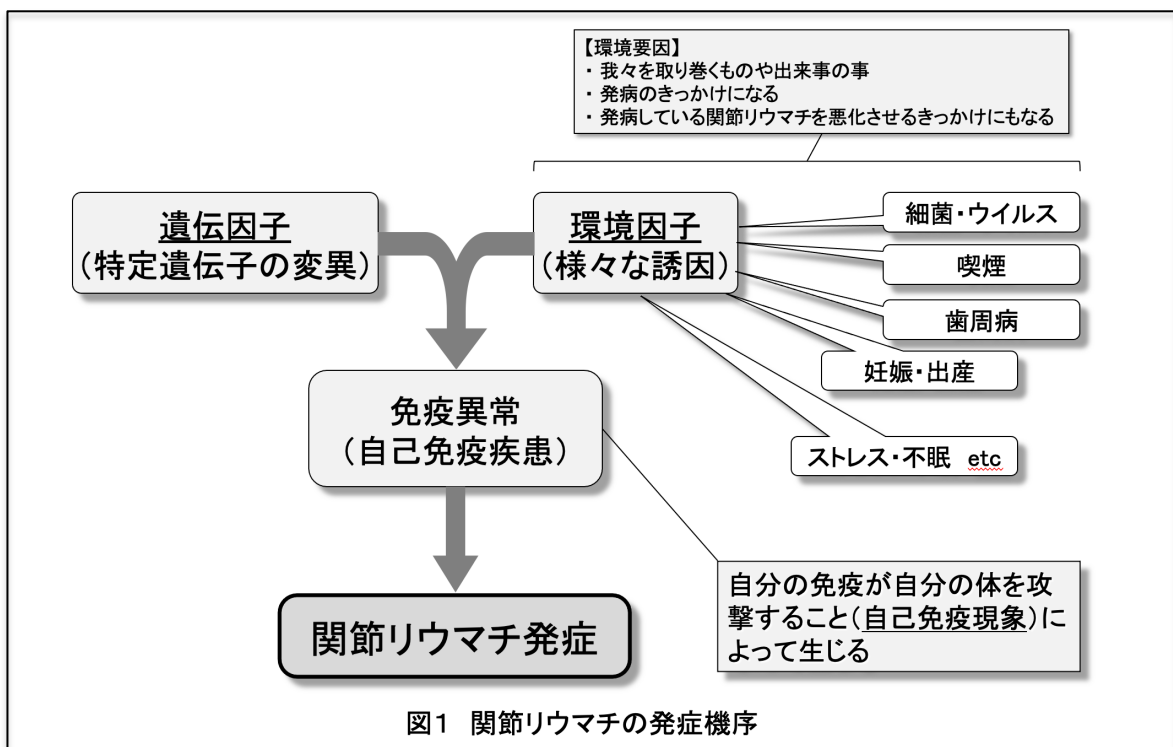


図1 関節リウマチの発症機序